

Ⅳ プレゼンテーションソフトウェアの活用

1 はじめに

現代の高度情報社会においては家庭でのコンピュータの普及率も高く、インターネットなどの活用も日常生活の一部となりつつある。しかしながら、まだ受信する側としての立場が多く、発信する際にも的確な表現を用いて伝えていこうという発想は少なくコミュニケーション能力が貧弱化してきている。

生徒においても様々な発表場面はあるものの、どのように自分の気持ちを伝えていくか、表現するか表現力はまだまだ育っておらず、相手が目の前にいないコンピュータでの意志の疎通から一歩ずつ考えていかなければならない。そのため情報教育においても自分の意志を伝える表現力（プレゼンテーション能力）が重要となり、相手に対し自分の気持ちをいかにして的確に伝えることができるかの表現力を身に付けていくことが必要となってくる。ワープロソフトウェアにおける文章や図形・画像処理ソフトウェアにおける画像データだけではなくマルチメディアを活用したプレゼンテーションソフトウェアを自在に使うことのできる生徒を育てていきたいと考えた。

2 中・高等学校におけるプレゼンテーションソフトウェアの活用の系統的な学習目標

（身につけさせたい力）

- | | |
|-------|---|
| 【中学校】 | ①ソフトウェアの特徴的な機能を理解し、利用する力
②ソフトウェアの機能を活用して自分なりに表現する力 |
|-------|---|

- | | |
|--------|---|
| 【高等学校】 | ①他のソフトウェアやデータの統合的な活用
②わかりやすく、人に伝わりやすい表現力 |
|--------|---|

3 学習目標における機能分析

	①ソフトウェアの特徴的な機能を理解し利用する力	②ソフトウェアの機能を活用して自分なりに表現する力
中学校	プレゼンテーションソフトウェアの操作法 (起動・基本操作・終了)	文字装飾等 スライドの並び替えやアニメーション効果など
	①他のソフトウェアやデータの統合的な活用	②わかりやすく人に伝わりやすい表現力
高等学校	他のソフトウェアで加工処理したデータ（表やグラフ）や画像、音、動画等の取り込み・編集	色づかいなどの表現効果や強調技法等伝わりやすいプレゼン技法

中学校 技術・家庭科指導案

平成〇〇年〇〇月〇〇日 (〇)
2年〇組男子〇〇名女子〇〇名
授業者 〇〇市立〇〇中学校
教諭 〇〇 〇〇

1 題材名 自分の作品をプレゼンしよう (プレゼンテーションソフトウェアによる作品CM作り)

2 題材設定の理由

<題材の必要性>

コミュニケーション能力が不足してきている現代の高度情報社会においては、自分の意志を伝える表現力 (プレゼンテーション能力) の必要性が高まってきている。いかに相手に自分の気持ちを的確に伝えていくかが重要となり、自分の意志を確実に伝えることのできる表現力を身に付けていくが今後必要となってくる。そのためにはワープロソフトウェアにおける文章や図形・画像処理ソフトウェアにおける画像データだけではなくマルチメディアを活用したプレゼンテーションソフトウェアを自在に使うことのできる生徒の育成が課題となり今回の題材を設定した。

<生徒の実態>

家庭内でもコンピュータの普及率は高く、インターネットなどの活用も多い。しかしながら、まだ受信する側としての立場が多く、発信する際にも的確な表現を用いて伝えていこうという発想は少ない。様々な場面での発表もあるものの、どのように自分の気持ちを伝えていくか、表現するかの表現力はまだまだ育っておらず、相手が目の前にいないコンピュータにおける意志の疎通から一歩ずつ考えていかなければならない。

3 題材の目標 (中学校として押さえたいところ、高等学校 普通教科「情報」との関連)

プレゼンテーションソフトの活用を通して、

- ①プレゼンテーションソフトウェアの操作・基礎知識
- ②マルチメディアの活用
- ③表現方法の基礎知識

を理解し、上級学校での実践的活用への学習基盤となる能力と態度の育成を行う。

4 本時の位置

自分の作品をプレゼンしよう	1時間【本時】
CMの流れを考えよう (絵コンテ)	1時間
CM製作開始 (起・承・転・結・効果)	5時間
発表会をしよう (モラル面も含む)	2時間
	9時間

5 本時と高等学校 普通教科「情報」との指導内容の関わり・系統性

中学校 技術家庭科 (技術分野)

- | | |
|---------------|--|
| <B 情報とコンピュータ> | (5) コンピュータを利用したマルチメディアの活用について
ア マルチメディアの特徴と利用方法を知ること。
イ ソフトウェアを選択して、表現や発信ができる。 |
|---------------|--|

高等学校 普通教科「情報」

- | | |
|-----------------|---|
| <A 情報活用の実践力> | (2) 情報の収集・発信と情報機器の活用について
イ 情報を効果的に発信したり、情報を共有したりするためには、情報の表し方に工夫や取り決めが必要であることを理解させる。 |
| <B 情報の科学的な理解> | (2) コンピュータの仕組みと働き
ウ コンピュータを活用して情報の処理を行うためには、情報の表し方と処理手順の工夫が必要であることを理解させる。 |
| <C 情報社会に参画する態度> | (1) 情報のデジタル化
ウ 情報機器を活用して多様な形態の情報を統合することにより、伝えたい内容をわかりやすく表現する方法を習得させる。 |

6 本時のねらい

プレゼンテーションの考え方、特徴を知ることができる <知識・理解>

ソフトウェアの簡単な操作ができる <技能>

【自分自身の作品のプレゼンを考えることができる <工夫・創造>【次時の課題】】

(身につけさせたい力)

【中学校】	①ソフトウェアの特徴的な機能を理解し、利用する力 ②ソフトウェアの機能を活用して自分なりに表現する力
【高等学校】	①他のソフトウェアやデータの統合的な活用 ②わかりやすく、人に伝わりやすい表現力

7 展開

学習内容	時間	生徒の活動	教師の働きかけ	評価と指導の工夫	高等学校 「情報」と の系統性
本時の学習 内容の把握	10	○本時の学習内容を聞き授業の見通しを持つ(1年のポスター作りの確認から)	○作業の視点を指示する。 ○PCの電源を入れ、待機させる。	○1年生の作品ポスター作りからイメージを膨らませる。	高等学校
学習課題の 提示		○学習課題を確認し、本時の学習活動を具体化する。 学習課題 ～自分の作品をプレゼンしよう～ (作品CM制作)	○本時の取り組みを具体的に考えさせる。	○プレゼンの制作する際の考え方を確認していく。	
		○自分の作品の機能等の確認	○今回のプレゼンの視点の確認	△自分の作品で伝えたい物を明確にしておく。	
課題解決作 業	35	○昨年度作品をみる。 ○伝わりやすかったものについてその理由とともに記入する。 →発表(共有化) ○ワークシートに伝わり易さをまとめる。 ○操作確認	○昨年度の作品プレゼンを一斉送信する ○伝える視点を確認しながら伝わりやすさについて考えさせ、発表させる。 ○プレゼンについての考え方をまとめる。 ○伝えるための技法を中心とした簡単なソフトの操作性の説明	<知識・理解> 【ワークシート・観察】 ◆伝え易さに気づき、その理由を記入することができる。 △いくつかの作品例で比較させる。 △発表の際にも伝わり易さを確認する。 <技能> 【ワークシート・観察】 ◆簡単な技法の操作ができる。	
【時間があれば】 (次時の課題)		○自分の作品をどうプレゼンするか考える。(メモ程度で記入)	○自分の作品おけるプレゼンの視点・技法を考えさせる。	○自分のプレゼンに対するイメージを膨らませる。	A(2)イ
まとめ	5	○本時の学習の自己評価を行う。	○本時の学習の自己評価を行わせる。	○次時の課題を確認しておく。	B(2)ウ C(1)ウ

8 評価について

ワークシートによる内容で評価する。(知識・理解)

ソフトウェアの操作法で判断する。(技能)

【工夫し創造する力については次回、自分の課題を考えるとこで評価する。】

【関心・意欲・態度については、毎回の気づきの蓄積と題材末のまとめで判断する。】

自分の作品をプレゼンしよう！

年 組 番氏名【 】

1. プレゼンってなあに？

授業でまとめた
ことを記入

2. 先輩のプレゼンを見て参考にしよう！

どんな所が見やすく・伝わりやすかったですか？

どんな所が見にくく・伝わりにくかったですか？

先輩のプレゼンを
見ながらメモする

その理由は？

その理由は？

表現方法の善し悪し
をはっきりさせる

3. プレゼンの表現方法にはどんなものがあったか

表現方法の確認を

4. 自分のプレゼン(作品CM)のイメージを考えてみよう。

自己の課題に
意識を向ける

CM絵コンテ（CMの流れ）を考えよう！

あなたの商品名

新★本棚くん

このCMで伝えたいもの（商品の機能・工夫点など）

- ・誰でもほしがるところをアピール！しきりがはめ込み式にして新しさを強調（商品名でも）（写真でリアルさを表現）

※流れの基本は起・承・転・結 ○絵コンテの内容説明（雰囲気なども具体的に）

①絵コンテ

起



- ・魔法使いブータン参上！

誰かが助けを求めている。

②

承



- ・あ！あれは新★本棚くんだ！

（新★本棚くんの登場）

登場シーンは、できるだけ派手に！

でも泣いている（実はうれし泣き）

③

転



- ・泣いていたのはみんながほしがるところから（人気の高さ、必要性・しきりがとれることを強調！）

④

結



- ・みんなそろってめでたしめでたし。

（実際に本を置いてある所を写真で）

この絵コンテを元にプレゼンソフトにて自分の作品のCMを作成していく。

高等学校 情報科学習指導案

平成〇〇年〇〇月〇〇日(〇)
1 年〇組 〇〇名
授業者 埼玉県立〇〇高等学校
教諭 〇 〇 〇 〇

1 題材名

プレゼンテーション「プレゼンテーションソフトウェアで学校紹介を作成しよう」
〔「情報A」「情報C」〕

2 題材設定の理由

社会の急速な情報化の進展に伴い、情報を効果的に伝えるためのプレゼンテーション能力が求められている。情報教育の目標の一つである「情報活用の実践力」は「課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを含めて、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力」であるが、プレゼンテーション実習を行うことで「情報活用の実践力」の一連の流れを学習することができる。そこで、情報の統合的な処理の学習として行うマルチメディア作品の題材として、プレゼンテーションソフトウェアによる作品制作を設定した。

3 指導計画（合計 5 時間）

第 1 時 プレゼンテーションの意味・目的・手順

プレゼンテーションソフトウェアの基本的操作方法の復習

第 2・3 時 プレゼンテーションの計画

学校紹介スライドの作成

第 4 時 スライドの自己評価・改善【本時】

見やすいプレゼンテーションスライドについて

第 5 時 学校紹介スライドの改善

- 注)・文字、数値、音声、画像のデジタル化に関してはすでに学習済みとする
・コンピュータによる情報の統合的な扱いが可能であることはすでに学習済みとする
・著作権、肖像権については、すでに学習済みとする

4 学習指導要領

＜高等学校 普通教科「情報」＞

「情報A」

(2)情報の収集・発信と情報機器の活用

イ 情報の発信と共有に適した情報の表し方

情報を効果的に発信したり、情報を共有したりするためには、情報の表し方に工夫や取り決めが必要であることを理解させる。

(3)情報の統合的な処理とコンピュータの活用

イ 情報の統合的な処理

収集した多様な形態の情報を目的に応じて統合的に処理する方法を習得させる。

「情報C」

(1)情報のデジタル化

ウ 情報機器を活用した表現方法

情報機器を活用して多様な形態の情報を統合することにより、伝えたい内容をわかりやすく表現する方法を習得させる。

＜中学校 技術・家庭科＞

「技術分野」B 情報とコンピュータ

(5)コンピュータを利用したマルチメディアの活用について

ア マルチメディアの特徴と利用方法を知ること。

イ ソフトウェアを選択して、表現や発信できる。

5 中学校 技術・家庭科との系統性

中学校では、プレゼンテーションソフトウェアの操作方法を中心に学習し、受け手の立場で作成することの重要性を意識させる。高等学校では、導入部分で中学校での取り組みの復習を行うとともに、具体的なプレゼンテーション技法について学習し、表現力を高めていく。プレゼンテーションという同じ題材を使用して中高で系統的に学習することで、より高度なプレゼンテーション能力を育成できると考える。

6 本時の目標

- (1) 見やすいプレゼンテーションスライドのポイントを理解する
- (2) 受け手の立場に立ってプレゼンテーションスライドを評価・改善できる

7 本時の展開

学習展開	学習内容	学習活動	指導上の留意点	中学校との系統性
導入 (10分)	学校紹介スライドの自己評価(1)	学校紹介スライドを自己評価する	○プリントを配布し、自己評価方法を指示する ○作成者としての立場だけでなく、聞き手の立場で客観的に作品を評価しているか確認する	(5) イ
展開 1 (25分)	プレゼンテーションの目的の復習	プレゼンテーションの目的について復習する	○プレゼンテーションの目的は、聞き手にわかりやすく情報を伝達することであることを確認し、スライドを作成する上で客観的な視点を持たなければならないことを意識させる	
	見やすいスライド	数種類のスライドを比較し、見やすいスライドとは何かを理解する ・文字の量、大きさ ・背景色とのバランス ・フォント ・数値データとグラフ化 ・文字データと図解化 ・アニメーション	○数種類のスライドを大型スクリーンに投影し、見やすいスライドを選択させ、なぜそう感じたか理由を記入させる ○どのスライドを選択したか挙手させ、誰にでも見やすいスライドを作成することが大切であることを理解させる ○文字の大きさを指導する際には、大型スクリーンだけでなくコンピュータにも表示し、作成時と投影時の見え方が異なることを理解させる ○どんなスライドが見やすいかを実際に比較させさせることにより客観性を養うとともに、効果的なスライド作成の具体的な技法を身につけさせる	
		見やすいスライドのポイントを理解する	○展開 2 で行う自己評価・改善につながるように、具体的にポイントを整理する ○伝達したい内容を効果的に伝えることがプレゼンテーションの目的であることを再度意識させる	
展開 2 (10分)	学校紹介スライドの自己評価(2)・改善	学校紹介スライドを再度自己評価し、改善案を考える 改善案にもとづいてスライドの改善を行う	○自己評価と改善案を考えさせることで、客観性と見やすいスライドの知識の定着を図る ○自己評価が終わった生徒には、作品の改善を指示する	
まとめ (5分)	本時のまとめ	学習したことを確認する	○学習したことを確認する ○次回は作品の改善を行うことを伝える	

8 評価

観点	評価の内容	評価の方法
関心・意欲・態度	見やすいスライドについて関心を持ち、意欲的に授業に参加できたか	学習態度の観察 プリントの内容
思考・判断	スライドを比較し、どのようなスライドが見やすいか考えられたか	プリントの内容
技能・表現	見やすいスライドのポイントを考えて、作成することができたか	プリントの内容 作品
知識・理解	見やすいスライドのポイントが理解できたか	ペーパーテスト

授業支援教材・教具

ワークシート及び教材・教具の一例

1年普通科「情報A」
マルチメディア作品の制作実習 ～プレゼンテーション～

○プレゼンテーションとは

○プレゼンテーションの種類

○プレゼンテーションの手段

○プレゼンテーションの手順

1
↓
2
↓
3
↓
4
↓
5

プレゼンテーションの計画

Why	目的	
Who	聞き手	
What	内容	
When	時間	
Where	環境	
How	手段	

絵コンテ

1

2

3

4

5

6

姓 名 氏 名 _____

プレゼンテーションスライド自己評価表(1)
○: 見やすい △: ふつう ×: 見にくい

チェック項目	評価	工夫した点・反省点
文字の大きさ・書体		
色づかい		
写真やイラスト		
アニメーションの使い方		
1枚の情報の量		
スライドのデザイン		
スライドの順番		
プレゼンテーションの目的意識 作成中に一番気をつけた点		

第1・2時で使用する。
プリントの右側でプレゼンテーションの概要を学習させる。その後、作成する作品のテーマ・内容を提示し、プレゼンテーションの計画を行う。絵コンテを書かせることで作成時間の短縮を図る。

プレゼンテーションスライド自己評価表(2)

チェック項目	評価 ○△×	問題点	改善案
文字の大きさ・書体			
色づかい			
適切な写真やイラスト			
アニメーションの使い方			
1枚の情報の量			
スライドのデザイン			
スライドの順番			
効果的な図解化			
効果的なグラフィ化			
テーマの伝達度			
プレゼンテーションの目的意識			
1回目の自己評価と変わった点			

第4時の導入で使用する。
チェック項目を提示することで、見やすいスライドのポイントを意識させることができる。また、自己評価により客観的な視点を持たせることができる。

第4時の展開2で使用する。
1回目の自己評価と比較することで、見やすいスライドのポイントの理解度が確認できる。また、改善案を考えさせることで、表現力を高めることができる。

1-A 趣味

私の趣味は、「映画鑑賞」です。
 だいたい2週間に1度は映画館へ足を運んでいます。
 最近見た映画の中でおすすめは「0000」です。

休日は、レンタル店でビデオを借りて見えています。
 映画館で一度見た映画も、家でじっくり見ると新しい発見
 があり楽しむことができます。

1-B 趣味

- 映画鑑賞
2週間に1度は映画館へ
「0000」がおすすめ
- ビデオ鑑賞
映画とは違った新たな発見！

2-A **2-B**

どれが見やすい？

明度の差

2-C

どれが見やすい？

どれが見やすい？

3

A どれが見やすい？
 B どれが見やすい？
 C どれが見やすい？

見やすいスライドについて考えてみよう

見やすいスライド	気づいた点・メモ
1 A B	
2 A B C D	
3 A B C	
4 A B	
5 A B	

スライド作成のポイント

マルチメディア作品作成実習の感想

1年 組 番 氏名

18ポイント18ポイント
 16ポイント16ポイント
 20ポイント20ポイント
 24ポイント24ポイント
 28ポイント28ポイント
 32ポイント32ポイント
 36ポイント36ポイント
 40ポイント40ポイント
 44ポイント44ポイント
 48ポイント48ポイント
 54ポイント54ポイント
 60ポイント60ポイント
 66ポイント66ポイント
 70ポイント70ポイント

スライド作成のポイント

- 文字は大きく太く
- 内容は簡潔に
- 数値データのグラフ化
- 文字データの図解化
- アニメーションを多用しない
- 統一感のある色づかい
- 安定感のある配置 など

(参考・引用資料)

「Welcome to 'IT' 情報A」実教出版
 「30時間でマスター プレゼンテーション+PowerPoint2002」実教出版
 「プレゼンテーション 新版 一よりよい自己表現のために」一橋出版